

なからぎ

184号

2008年7月

絵図や写真から景観を復元する

教務部長 高原 光

京都盆地を取り囲む山々は、緑に覆われてどこを見ても森林である。針葉樹の人工林もあるが、5月上旬に、シイノキの黄色い花によって、東山や西山が黄金色になるように常緑広葉樹も広がっている。ところが、つい100年程前には、このような緑に覆われた景観ではなかったことがわかってきた。京都精華大学の小椋純一教授は、多くの絵図を分析して、室町後期から江戸時代にかけては、京都周辺の山々は低木林が多く、ほとんど植生のない禿げ山も多かったことを明らかにされている（「絵図から読み解く人と景観の歴史」雄山閣1992年刊）。また、東山については、昭和9年9月の室戸台風の際に撮影された多数の写真（「昭和九年九月颱風被害調査書」大阪営林局1936年刊）があり、森林が今ほど大きくない様子がよくわかる。また、清水寺の舞台から見る景色も、今とは全くことになっており、背の高いマツが立っている。このような景観を復元する研究には、図書館や博物館などが保存している資料類がたいへん役に立つ。京都府立総合資料館には、明治、大正、昭和初期の写真が保存されていて、資料館のホームページの「京都北山アーカイブズ」ではそのサンプル版を見ることができる。この中の明治18年に始まった琵琶湖疏水工事の記録写真からは、当時の森林は極めて貧弱で禿げ山状態のところも多かったことを見ることができる。昨年度の卒業論文で行った松尾大社の社叢の森林景観の変化に関する研究では、大正時代から昭和30年代にかけての写真を、松尾大社から見せていただくことができた。これらの写真は、現在のシイノキを中心とする鬱蒼とした森が、昭和30年代までマツの多い林であったことを示している。このように、様々なところに所蔵されている写真も大変貴重な情報をもたらしてくれる。

さて、京都府立大学の図書館の3階自習室の壁面に大きな絵図が掛かっている。これは、京都生まれの鳥瞰図絵師、吉田初三郎が昭和初期の京都の名所を画いた「京都名所大鳥瞰図」である。府大広報のNo.110（2001.2）に前学長の井口和起先生が吉田初三郎の解説をされている。上に述べたように、この鳥瞰図からも様々な情報を読み取れる。森林の様子は簡略化されているが、町の様子、桜の名所、紅葉の名所を見ることができる。皆さんも、それぞれの違った目で、この鳥瞰図を眺めて、今の京都と比べてみてはいかがでしょうか。

吉田初三郎は、日本列島を旅しながら各地の鳥瞰図を画いている。今はロシア領であるサハリン（樺太）についても、「樺太観光交通鳥瞰図」という日本の領土であった北緯50度までの樺太南部を中心に町や交通が発達している賑やかな様子を描いている。私は森林変遷についての研究のため、2005年、2006年にサハリン調査をロシアの研究者と共同で行った。吉田初三郎の鳥瞰図を見ながら、調査の行程をたどると、戦前の樺太の地名と現在のロシア名を比べることもできた。鳥瞰図には北緯50度に近い最北端の町の「半田」という表示もされている。旧国境の北緯50度を超えて中部まで足を運んだが、その国境の町には、「半田」という地名が残ったのか、ユジナヤハンダサという鉄道の駅があり、弾跡が生々しいトーチカの残骸が戦後60年以上たった今も残っていた。

（たかはら ひかる：生命環境科学研究科教授）

御紹介の「絵図から読み解く人と景観の歴史」（請求番号 291.62 Ⅱ O）、「昭和九年九月颱風被害調査書」（請求番号 654.5 Ⅱ O）を2階閲覧室入口の新作図書コーナーに配架していますので、御利用ください。また、「樺太観光交通鳥瞰図」は国際日本文化研究センターに所蔵されています。

心理学読書案内

図書館運営委員 石田正浩

専門が心理学であることもあって、学生さんからはよく本を紹介して欲しいと言われます。心の問題は誰にとっても身近であり、関心をもつ人が多いことは喜ばしいのですが、期待にそえるような本が紹介できているのかわ自信はありません。日常的に読むものは、どうしても専門性が高い論文集のようなものが多く、しかも良いものは英文になってしまいます。日本語で読める、読み物としての面白さと学術性をそなえたものは多くはなく、とくに、日本人の手になる単著となるとさらに数は少なくなります。

そういうわけで良書を紹介する仕事は難しいのですが、ここでは掛け値なしで名著といえる 3 冊を紹介して学生さんからの問いかけにひとつの答を出しておくこととします。

・ロバート・B・チャルディーニ著、社会行動研究会訳、『影響力の武器—なぜ、人は動かされるのか [第2版]』誠信書房

副題である「なぜ、人は動かされるのか」という身近なテーマをあつかった誰にもお薦めできる社会心理学の傑作です。読むのに特別な知識は不要です。セールス場面に代表されるさまざまな説得のテクニックが、筆者自身の実験・調査研究をふんだんにまじえながら見事に整理されています。影響力は、返報性、一貫性、社会的証明、好意、権威、希少性という 6 つの基本的なカテゴリにまとめられ、その影響力の原理とそれを用いたテクニックの解説だけでなく、どのようなときにそのテクニックに操られているかを判別し対処する方法まで示す親切ぶりです。

社会的証明の章で印象に残っている箇所は、自殺の記事が新聞の一面に載ったとき、著者がそのことを手帳に書き込み、車を運転する

ときに後続車に気をつけるようにしたり、飛行機を乗り継ぐような長旅を避け、普段より多くの搭乗者保険をかけるようにしているということです。私の知り合いでこんなことをする心理学者は誰もいませんが、自分の研究成果への信頼とそれをさっそく行動に取り入れるアメリカの研究者らしさがうかがえて面白いところです。

この本を読んで社会心理学者になった知り合いがいますが、それほど心理学の面白さを堪能させてくれる本ともいえます。

・デビッド・マー著、乾敏郎・安藤広志訳『ビジョン—視覚の計算理論と脳内表現』産業図書

これは手強い本です。原著が出版されたのは 1982 年で、すでに 25 年以上の時間が経過しています。内容はハードな視覚研究の成果をまとめたものですが、十分に理解するには心理学や生理学のある程度の知識の他に数学の素養も必要となります。実のところ私自身、十分に理解できていない箇所があり、ずっと宿題になっている本という位置づけです。それでもここに紹介させてもらうのは、この書が視覚研究におけるバイブル的存在である以上に、その独創性が他の分野にも与えた影響力の大きさです。

マーは、情報処理システムを理解するためには 3 つの水準での理解が必要であると主張しました。まず、その情報処理システムが何を計算し、なぜそのような計算をするのかという計算理論と呼ばれる水準があります。ついで、その計算をどのように行うのかという水準があり、計算の入出力のための表現と計算を実際に行うアルゴリズムを特定することが要求されます。最後が、その表現とアルゴ

リズムを物理的ハードウェアとしてどのように実現するかという水準です。

昨今の脳ブームは脳がわかれば心がすぐにも理解できるような錯覚を与えますが、心という複雑な情報処理システムの複合体を考えたとき、そこで何を目的とした計算が、どのような表現とアルゴリズムを用いてなされているのかが十分に解明されていなければ、脳の働きの一部がわかったからといって心の理解などほど遠いことを、マーの主張は教えてくれます。

心理学の最近の流行といってもよい進化心理学と呼ばれる領域があるのですが、それは、我々の心の働きがそもそも何のためにあるのか、どのような課題を解くべき仕組みなのかということ、進化と適応という観点からとらえていくアプローチです。これは心理学の中にマーの計算理論的視点が広がっていることを示しています。

数学の素養があり、人間の視覚に興味がある人は挑戦してみてください。心理学の高みの姿がそこには見えるはずですよ。

・山岸俊男著『信頼の構造—こころと社会の進化ゲーム』東京大学出版会

最後に日本人の手になるものを 1 冊紹介しましょう。

「集団主義社会は安心を生み出すが、信頼を破壊する」というメッセージを中心とするこの本は、「日本のような集団主義社会は欧米のような個人主義社会に比べて人々がお互いを信頼し合っている」という常識をくつがえす問題提起の書でもあります。

「信頼」という概念の整理から始まり、次いで著者の「信頼の解き放ち理論」へと展開していきます。巧みな実験ゲームや質問紙調査の結果にもとづき、信頼が必要となるのは騙される可能性がある社会的不確実性の存在する状況であることが示されます。そのような不確実な状況には、特定の

人と継続的な関係を結ぶことで対処できますが、それは同時に他の人との関係から利益を得る機会を手放すコストを生み出します。そして社会的不確実性と機会コストが大きい状況では、人を信頼する傾向の高い者の方が低い者よりも大きな利益を得る可能性が出てくるのです。日本のような固定的な人間関係を形成することで社会的不確実性に対処する社会では裏切られない安心は得られても多大な機会コストを支払うことになるのに対して、信頼をベースにする欧米社会では騙される可能性と引き換えにより大きな利益を得るチャンスも増えることになります。そこで重要になるのが人一般に対する信頼と騙されないための社会的知性です。著者の主張はそこから人間の社会的知性の進化へと広がっていき、進化心理学的展開を見せます。

欧米と日本の比較に関するテーマは、個人的な体験に基づくエッセイ的なものになりがちですが、それをきちんと実験や調査に基づいて展開するところが心理学者の手によるものである証です。筆者の主張には議論の余地があるでしょうが、これほど一貫して一つの主張を説得的に展開する心理学書はなかなか見られません。心理学という学問の特徴を知らない人が読むと、なぜこんな細かいことにいちいちこだわって実験を積み重ねるのかと思われるでしょう。そこが愚直なまでに実証にこだわる心理学という学問の真骨頂であると私は思います。

これらの 3 冊はそれぞれに異なる味わいを持ちますが、どれも一人の著者が自らの明確な主張をもって書き下ろしている点が大きな特徴です。論文集のようなものではなく、通して読まれることを想定して書かれた読み物としての完成度の高さもあり、心理学という学問の深さ、広さ、アプローチの特徴が十分に堪能できるものです。

(いしだ まさひろ 公共政策学部准教授)

御紹介の「影響力の武器—なぜ、人は動かされるのか [第 2 版]」(請求番号 361.4 || C)、「ビジョン—視覚の計算理論と脳内表現」(請求番号 491.374 || M)、「信頼の構造—こころと社会の進化ゲーム」(請求番号 361.4 || Y) を 2 階閲覧室入口の新着図書コーナーに配架していますので、御利用ください。

平成 19 年度の図書館利用者サービスをふりかえって

貸出し冊数が微減

学生貸出し冊数は近年増加傾向にあり、18年度は過去最高となりましたが、19年度はわずかながら減少し、学生総貸出し冊数に占める学部生の割合は8割を切りました<表①>。減少した要因としては次の3点が影響しているのではないかと考えられます。

① 19年度図書館資料費が減額

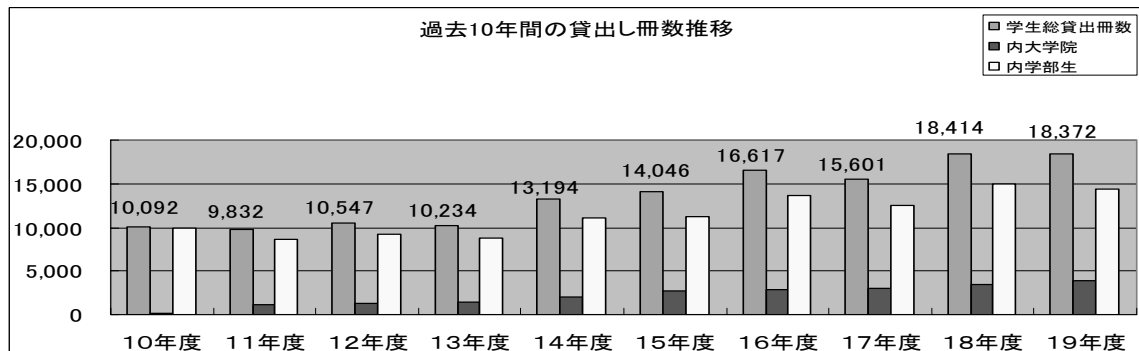
電子ジャーナルの費用が図書館資料費から切り離された結果、18年度は学生の皆さんの自主的な「学習」を支援し、多様化する読書要求にも応えられる「選書」がある程度コンスタントにできるようになりました。しかし、19年度は減額のため、年間購入受入れ冊数が減少しました。

② 新着図書の入りに波

法人化を控えて、19年度は円滑に予算を執行できませんでした。そのため、図書の発注や受入れに影響が出て、新着図書を途切れることなく書架に並べることができませんでした。

③ 先生方との連携不足

18年度は何人かの先生から、レポートの課題図書リストをいただきました。締切りに間に合うよう、図書館未所蔵分を購入して学生の皆さんの利用に役立てることができました。19年度は担当科目の変更等もあり、昨年度より連携が弱くなったように感じました。



<表①> 過去10年間の学生貸出し冊数

図書館利用カードが登録制に

従来、入学式終了後に式場で全員に図書館利用カードを配布していました。19年度から受取り時に簡単な利用案内を行うことで、もっと図書館を有効に利用していただけるよう登録制に変更しました。

申込み時にパスワード登録を呼びかけた結果、19年度は図書の予約件数が18年度と比べ、1.5倍に増加しました。パスワードは文献複写依頼を図書館HP上から行う際にも使用します。19年度入学生、20年度入学生でまだ受け取っていない方は、学生証を持って図書館2階カウンターまでお越しください（登録がまだの方、パスワード登録のみの方も9時から17時までの間をお願いします）。

図書館ガイダンスの紹介

新入生図書館ガイダンス（全学対象）

4月4日（金）の新入生健康診断日に合わせて、新入生向け図書館利用ガイダンスを初めて実施しました。30分間でOPACを使った蔵書検索の仕方、所在表示の説明、書庫見学等を行いました。検索では、今年から始まった「新入生ゼミ」の課題図書を検索し、実際に書架で該当図書を探しました。各回とも参加者は少人数でしたが、寄せられた質問に職員がその場でお答えするという場面もありました。

府大図書館サービスの紹介

2008.04.04

* 図書館に来館して

図書・雑誌・新聞・インターネットを利用
1人6冊2週間図書を借りる（4年生・院生は1ヶ月貸出6冊もあり）
図書館・資料に関する相談（レファレンス）
リクエスト（学生希望図書制度）

* 図書館に来館しなくても

事前にパスワードを申請するをインターネットから
貸出中の本へ予約や論文コピーの取寄依頼が可能に
リモートアクセスの環境を整えて
電子ジャーナルが自宅から閲覧可能に

詳細は入学式で配布する「図書館利用案内」や図書館報「ゆからぎ」をご覧ください。
2階カウンターで図書館利用カードを申請しします。
（「利用カード申請書」と学生証をお持ちください。）



資料・情報の検索ガイド

環境・情報科学科編

2008/05/16

京都府立大学附属図書館

1

図書館ガイダンス（環境・情報科学科 1 回生対象）

「環境・情報科学概論」の時間に毎年実施しています。今年は5月16日（金）5コースに実施しました。内容と感想を紹介します。

- ① 視聴覚室で図書館職員による府大図書館の利用方法、検索の仕方、文献情報の見方等の説明（説明が長かった。検索の仕方がわかってよかった。3、4回生になってからでもよいのではと思った。忘れてしまいそう。）
- ② 閲覧室に移動後、実際にOPACを検索し、課題の図書を書架から抜き出す実習（いい練習になった。少し難しかった。聞いたことをすぐできるというのがよかった。）
- ③ 書庫見学（しっかり見られなかった。1階と3階に書庫があることを初めて知った。本があるのは2階だけだと思っていた。）
- ④ 練習問題を次週までに提出（大変だった。少し難しい問題もあった。家でもう一回復習という感じでよかった。時間内にやりたかった。）

電子ジャーナル・データベースのご案内



北米の学術出版連合SPARC（学会や非営利学術出版社）が発行する雑誌を中心とする生物・生命・環境科学系の電子ジャーナル148誌（'08.2月現在）です。図書館HPの「電子ジャーナル」からアクセスし、この機会にどんどん利用してみてください。

EBSCO Research
HOST Databases

Green File

地球温暖化、リサイクルなど、環境に関する約295,000件のレコード（うち4,600件以上はオープンアクセス）にアクセスできるようになりました。

平成20年度 第1回 図書館運営委員会開催報告

平成20年度第1回の附属図書館運営委員会が6月9日(月)に本館第1会議室で開催されました。その概要は次のとおりです。

1 協議事項

- (1) 図書館運営委員会ワーキンググループ (WG) について
「自己評価・あり方検討WG」、「選書WG」、「電子ジャーナルWG」という3つのWGの枠組を継続することとし、あらためて各WGの設置趣旨を確認。特に、本年度は「自己評価・あり方検討WG」において、法人化を踏まえ、①大学図書館の役割・機能 ②府大附属図書館のあり方 ③府大附属図書館施設・設備のあり方 ④府大附属図書館の第三者評価について検討することとなった。
また、各WGのメンバーを決定した。
- (2) 平成20年度図書購入費執行計画について
本年度は、大学予算が未定のため、図書購入計画も暫定のものとなることを説明するとともに、学習基本図書の購入リストについて教員1人当たり10点程度を7月末までに提出するよう依頼することを確認した。

2 報告事項

- (1) 平成19年度決算及び事業報告について
決算・事業報告では、当初予算での新規図書購入が厳しい中、大学特別備品費などから追加予算の配当を受け、図書購入を行ったこと、総貸出冊数については過去最高であった平成18年度並みの水準を維持したこと、電子ジャーナルについては全学共通教育研究費経費の配当を受け、継続して購読することができたことなどが報告された。
- (2) 平成20年度図書関係予算について
平成20年度図書関係予算についても暫定的な性格となり、大学予算が確定後、追加提案する旨報告された。
- (3) 法人化に係る中期計画(案)について
中期計画(案)に対する附属図書館の意見について、あらためて説明がなされた。

3 その他

委員から附属図書館の改革について提案があり、今後、「自己評価・あり方検討WG」で議論していくこととなった。

平成20年度 図書館運営委員会委員名簿

所 属	職 名	氏 名	所属ワーキング
附属図書館	館 長	山 崎 福 之	
文学部	教 授	野 口 祐 子	電子ジャーナル
	准 教 授	藤 原 英 城	自己評価・あり方検討
	准 教 授	川 分 圭 子	選書
公共政策学部	教 授	大 島 和 夫	自己評価・あり方検討
	教 授	津 崎 哲 雄	選書
	准 教 授	石 田 正 浩	電子ジャーナル
生命環境科学研究科	准 教 授	沼 田 宗 典	選書
	教 授	宮 崎 猛	自己評価・あり方検討
	教 授	佐 藤 健 司	自己評価・あり方検討
	准 教 授	リントゥルオト正美	電子ジャーナル
	教 授	内 田 保 博	選書
	助 教	三 好 岩 生	電子ジャーナル
附属図書館	事 務 長	道 家 俊 之	
	資 料 主 任	久 保 直 弘	

カレンダー

2008年7月						2008年8月						2008年9月								
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5						1	2		1	2	3	4	5	6
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				
★～7/23(水) 通常貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)						★7/24(木)～9/22(月) 夏休み貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限:10/8(水))						★7/24(木)～9/22(月) 夏休み貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限:10/8(水))								
★7/24(木)～9/22(月) 夏休み貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限:10/8(水))						★8/12(火)～31(日) 2階閲覧室(書庫を含む) は、蔵書点検のため休室。この間、図書の返却 は通用口横の[返却ポスト]をご利用下さい。						★9/15(月) 休館 敬老の日 ★9/23(火) 休館 秋分の日 ★9/24(水)～ 通常貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)								
★7/21(月) 休館 海の日																				
★7/26(土)・27(日) オープンキャンパスのため 10:00～16:00 2階閲覧室のみ開室 (閲覧及び貸出返却業務は行いません)																				
開 館 時 間 等																				
～8/6(水) 通常開館												9:00 ～ 21:00								
8/7(木)～11(月)、9/1(月)～30(火) 夏季休業中												9:00 ～ 16:45								
休 館 日												土・日・祝 蔵書点検期間(8/12(火)～29(金))								